

## 令和5年度 和歌山大学教育学部学校推薦型選抜 学校教育コース

### 集団討論のテーマ

学校における教育課程（カリキュラム）の基準である学習指導要領の中で、修学旅行（遠足・集団宿泊的行事）は、以下のように定められています。

自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道德などについての体験を積むことができるようになります。

（文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別活動編』2017年より一部抜粋）

皆さんが学校の先生になったらどのような修学旅行にしたいですか。また、それはなぜですか。

近年の修学旅行の変化について報じた新聞記事を参考に、議論してください。

参考資料(1) 日本経済新聞 2022年7月16日(土曜日)31面。出題に際し、内容を一部改変した。

## 修学旅行先、和歌山・滋賀が躍進

新型コロナウイルス禍で関西への修学旅行先の勢力団に変化が起きている。修学旅行の定番とされる京都、奈良や大阪が苦戦する一方で、滋賀や和歌山を選ぶ学校が増えている。豊かな自然や伝統産業を体験するメニューが人気を集めると同時に、兵庫県でも淡路島など屋外での活動のニーズが高まっている。

日本の古式捕鯨発祥の地とされる和歌山県南部の太地町を訪れる修学旅行生がこの数年、目立つて増えている。コロナ前は小中高校を合わせても年間20校程度、約1000人規模だったが、2020年度は188校の約8200人、21年度も287校の約1万3200人に跳ね上がった。

お目当ては鯨類の骨格標本や古式捕鯨の道具などを展示する町立くじらの博物館だ。

捕鯨400年の歴史を学芸員が説明し、捕鯨のあり方を考える歴史学習気だ。「ピーク時には朝から晩まで1日に20台以上も修学旅行のバスが来

る。今年は修学旅行オフシーズンの7月にも予約が入っている」と営業担当者は喜ぶ。県内の中小学生が8割を占めるが、近隣の三重県などからも増えている。

表にもあるように、関西6府県の中で修学旅行のは和歌山県と滋賀県だ。和歌山は19年度の全国順位下位7位から20年度は上位26位までシェアを上昇させた。上昇率も関西の中でも最も高くなつた。

和歌山県によると、21年度も県外から過去最多の256校(小学校も含む)が訪れた。関西圏が約5割、三重県や愛知県など中京圏が約4割を占める。県観光交流課では「コロナ禍で遠方か

ら近場に修学旅行の行き先を変更する流れをうまくとらえられた」とみる。

那智勝浦観光機構(那智勝浦町)が企画する熊野古道を語り部と巡るツアーノとの体験プログラムの20年度の参加は約100校とコロナ前の約10倍に拡大。みなべ町では梅干し・梅ジュースづくり体験が人気を集め。20年度は前年度比

アートなどの体験プログラムの20年度の参加は約100校とコロナ前の約10倍に拡大。みなべ町では梅干し・梅ジュースづくり体験が人気を集め。20年度は前年度比

アートなどの体験プログラムの20年度の参加は約100校とコロナ前の約10倍に拡大。みなべ町では梅干し・梅ジュース

アートなどの体験プログラムの20年度の参加は約100校とコロナ前の約10倍に拡大。みなべ町では梅干し・梅ジュース

アートなどの体験プログラムの20年度の参加は約100校とコロナ前の約10倍に拡大。みなべ町では梅干し・梅ジュース

アートなどの体験プログラムの20年度の参加は約100校とコロナ前の約10倍に拡大。みなべ町では梅干し・梅ジュース

アートなどの体験プログラムの20年度の参加は約100校とコロナ前の約10倍に拡大。みなべ町では梅干し・梅ジュース

関西6府県の20年度の修学旅行先シェア		
全国順位	構成比	2019年度比増減(ポイント)
1 京都府	5.4%	▲11.4
5 奈良県	4.2	▲9.4
8 兵庫県	3.9	0.9
11 大阪府	3.4	▲6.7
26 和歌山県	1.6	1.5
29 滋賀県	1.4	1.0

(注)都道府県別の全国シェア(中学・高校の合計)。▲はマイナス

と話す。  
(中略)  
その他、兵庫県ではバソナグループが淡路島で運営する体験型テーマパーク「ニジゲンノモリ」(兵庫県淡路市)を目的として人気が高まる。コロナ禍前には教育関連の利用は少なかったが、22年に入つて受け入れが増加。様々なアクティビティーが楽しめる「ネオスタリゾート神戸」(兵庫県三木市)も20年秋から関西圏の学校の利用が増えている。

バソナは5月に旅行会社や学校、企業向けに淡路島観光をPRするサイトを制作。ニジゲンノモリだけでなく、「体験型SDGs研修」として農業

15%に減ったが、22年4~6月は19年の同時期の8割ほどに回復した。震災体験を語る語り部のプログラムが人気で、同センターは「次の災害に備えるべきかを考えてもらえたら」と話す。

(後略)

この部分に記載されている写真については、

著作権法上の問題から掲載することができませんのでご了承願います。

上:波止場釣り体験をする修学旅行生(和歌山県白浜町)  
下:梅ジュース作り体験をする三重県鳥羽市の中学生たち(和歌山県みなべ町)

## 令和5年度 和歌山大学教育学部学校推薦型選抜 支援教育コース

### 集団討論のテーマ(1)

現在、あなたは中学校教員です。4月に3年生の学級の担任になりました。あなたのクラスの生徒の1人が、5月に病気のために入院することが分かりました。8月には退院し、9月にはあなたのクラスに戻ってきます。学校及び担任として、この生徒が卒業するまでの間、どのような指導・支援を行う必要があるか考え、話し合ってください。

令和5年度 和歌山大学教育学部学校推薦型選抜 支援教育コース

## 集団討論のテーマ(2)

あなたが今の学校教育において問題だと思うことはなんでしょうか？問題だと思うことがあるとしたら、最も重要であると考えられること・ものについて話し合ってください。